

「鳥取県の民話」連載後日譚

酒井 董美^{ただよし}

「鳥取の民話」(全90話)は粗筋と解説を加えて、令和2年1月29日から毎週水曜日に『日本海新聞』に90回にわたって連載した。後日譚として思い出を記しておきたい。

これは鳥取県立博物館ホームページ「民話」に đăng載されているものをコラボで活用したものである。このホームページには東部、中部、西部各地区の民話30話、合計90話が đăng載されていて、収録当時の語り手の声を聴くことが出来るようになっていて。個人情報の問題で、個人名はそこには伏せられているが、資料としての価値を高めるため、本稿ではそれを明らかにしておきたい。収録の際、筆者は伝承者ご本人から口頭ではあるが、将来、発表のときには氏名を發表することになるかも知れないと了解を得ていることを、ここに記しておき、読者の了解を得たい。以下ホームページの概要を記しておく。

関 敬吾著『日本昔話大成』の分類に従って、90話の内訳を眺めると、昔話では動物昔話7話(東部2、中部2、西部3)、本格昔話72話(東部28、中部23、西部21)、笑話7話(中部4、西部3)。この他に伝説4話(中部1、西部3)が含まれている。

次に語り手の収録数を見ておこう。

- ① 29話・大原寿美子(東部)、② 18話・山口忠光(中部)、③ 14話・片桐利喜(西部)、④ 5話・別所菊子(中部)、⑤ 4話・松原あき(西部)、⑥ 3話・名越雪野(西部)、⑦ 遠藤たい(西部)、浦上金一(〃)、⑧ 2話・毎田定子(中部)、徳永あさこ(西部)、⑨ 1話・寺坂とき(東部)、高力秋寛(中部)。小椋喜代(〃)。矢間省三(〃)。福島寿子(西部)、根平こう(〃)、宮倉玲子(〃)、河場敏雄(〃)

三地区ごと同数である30話の登録とはいうものの、東部だけは大原寿美子さんがほとんどの29話を占めているのはどうしてだろうかという疑問が読者におありだと思ふ。

理由はこうである。筆者が鳥取県内を録音して回っていた目的は、わらべ歌収録にあった。後日、『日本わらべ歌全集』の中の『鳥取のわらべ歌』として京都の柳原書店から尾原昭夫氏と共著で出版されたが、重点はわらべ歌収録にあり、ついでに民話も録音していた。東部地区では大原さんの語りの素晴らしさに魅せられ、他の方からは聴かなかつたので、大半は大原さんで終わってしまったというのがこの真相である。

時代が進み、最近では新聞連載のやりには、QRコードを付けることを新聞社に話しても、なぜか歓迎されなかった。それ以上は押さなかった。鳥取県立博物館のホームページを開いて音声聴いていただければよいだろうと考えたからであるが、連載終了後、単行本『鳥取の民話』(今井出版)では話ごとにQRコードをつけ、読者はスマホなどで開いて、収録当時の語り手の声を聴いていただくことが可能になった。

その後、鳥根県の民話については、出雲かんべの里のホームページに、鳥取県同様、90話(出雲地区30、石見地区30、隠岐地区30)を掲載してたのを踏まえて、他紙に連載するときQRコードを記しておいたので、購読者はスマホなどでそれを開くことで、ありし日の語り手の声を聴けるのである。時代の進展によって便利になったものだと思ふ筆者は感心するばかりである。

